

日野市立教育センター一報

教育センターだより

第33号 平成26年6月23日発行



日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分



平成26年4月17日
わかば教室 春の遠足 多摩動物公園



着実に実践し、より役立つ教育センターに

所長 松澤 茂久

当教育センターは今年で開設11年目を迎えました。施設・設備はだいぶ老朽化してきましたが、この間センターは「教育のまち日野」の一翼を担い、「基本と先進の教育」を支える機関としての自負を持って活動してまいりました。3月に第2次日野市学校教育基本構想が策定されましたが、ここでの、①21世紀を切りひらく力②次代をつくる特色ある学校づくり③つながりによる教育、という基本方針を実現していくためにも、センターの果たすべき役割は大きいものと思っています。

しかし、今センターは大きな変化のうねりの中にあります。今年度から日野市発達・教育支援センターの発足に伴い、一般教育相談がそちらに移行しました。また、都教委の退職管理職・教員の学校現場配置方針により、今後、全ての区市の教育センター所員が削減を余儀なくされる可能性が出てきました。このように、やや先行き不透明な部分ではありますが、こういう時ほど足元をしっかりと見据え、やるべきことを着実に実行し、より現場に役立つ教育センターであらねばならないと認識しています。平成26年度も以下の3事業を実施し、より充実した活動となりますよう所員一同力を合わせてまいりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

調査研究部門では、本年度も、学校現場や関係機関等と連携しつつ、よりよい授業実践や教材開発ができるよう、「理科教育」、「郷土教育」の研究に継続して取り組みます。また、「ひのっ子教育21開発委員会」の研究(今年度は理科の魅力ある授業づくり)を補佐し、各学校の活発な校内研究と相まって、「授業研究の日野」を支え、推進します。

研修部門では、教育センターの専門スタッフの力を活かして、若手教員について実際の授業に即した個別指導を行い、授業力向上の力添えをします。その際には「授業観察のためのガイドライン」に沿って学校と共通認識で指導に当たります。また、教育委員会が実施する各種教員研修が円滑に実施できるように協力していきます。

相談部門は、「学校生活相談」と「わかば教室」に分かれます。前者では学校生活上の問題、不登校に関することなどで悩み・課題を抱える子どもたちの相談や支援、資料提供を行います。わかば教室では、不登校の子どもたちの学ぶ場としてeラーニングを含め、子どもたちの実情に即して学習や進路等を一緒に考え支援していきます。また、登校支援コーディネーターが「発達・教育支援センター」のスクールソーシャルワーカーと連携して登校支援を行います。

教育センターの事業内容については、webサイトでの紹介に加え、「教育センターだより」、「教育センター紀要」、「郷土日野指導事例集」などの刊行物も発行していますので、ご一読いただければ幸いです。また、市内の研究校の研究紀要なども電子ファイル化して公開していますのでご活用ください。

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」「郷土教育推進の研究」の推進、日野市教育委員会事業「ひのっ子教育21開発委員会研究」の支援を関係機関のご協力の下、進めています。以下、年間計画のあらましをお知らせします。

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育

ひのっ子が主体となる理科教育を目指して

第2次日野市学校教育基本構想では、基本方針1で子どもに「自ら課題を発見し、考え、判断し、よりよく解決する確かな学力の育成」が求められ、基本方針2では指導する教師に「子どもたちが主体となる魅力ある授業デザイン」が求められています。

一方、小学校では理科の授業を得意としない教員も多く、理科授業の指導力向上も課題です。

本年度は、研究テーマを「ひのっ子が主体となる理科教育」とし、子どもが進んで取り組む理科授業への改善や学校・教員をサポートする「理科支援センター」の在り方を実践的に研究します。また、理科に関する研究活動等への支援・協力、諸機関との連携や日野の自然の教材化を進めます。

(1) 研究の目的

①学校・教員が実践する理科教育への支援を行なう。

- ・理科学習における学校や教員への支援
- ・教材・教具の提供と貸出
- ・デジタル教材等、ICTを活用した授業の推進
- ・理科に関する情報の発信
- ・ひのっ子教育21開発委員会理科分科会や理数フロンティア校、小・中教研との連携

②理科の指導力向上を目指して、研修の充実を図る。

- ・コア・サイエンス・ティーチャー（CST）を中心とした理科実技研修会（CST講座等）
- ・外部の諸機関を活用した研修

③諸機関との連携と日野の自然の教材化を進める。

- ・日野の自然の掘り起こしと教材化の推進
- ・諸機関等との連携

(2) 研究の方法

①学校や教員の理科学習を支援のための「理科支援センター」のあり方を実践的に検討する。

②子どもが主体的に活動する理科授業を目指し、充実した研修の実施について検討する。

③諸機関との連携や日野の自然の教材化について検討する。

(3) 組織・運営 委員長・副委員長：小・中学校校長会代表者

委員：小・中学校副校長会代表者、理科教育の有識者、元 CST 専属理科支援員、CST、理数フロンティア校担当者、ひのっ子教育21開発委員会担当所員、小・中教研理科部長、理科実技研修会講師、理科担当指導主事、教育センター所員

(4) 活動日程 ①理科教育推進研究委員会・・・年間5回を予定

②研修会等 6月11日（水）午後：小・中連携の理科授業(小学校の授業)

8月 1日（金）全日：理科実技研修(午前・小学校教諭対象の初任研)

8月22日（金）全日：昆虫スキルアップ研修・多摩動物公園

8月27日（水）全日：理科実技研修・富士電機株式会社

9月10日（水）午後：小・中連携の理科授業(中学校の授業)

1月 7日（水）午後：「電気の利用」研修会 日本電機工業会・教育センター

CSTを活用した小学校理科実技研修会（CST講座）：月1回実施

2 郷土教育推進の研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

～日野の歴史・自然・文化・産業・人を授業で活用する～

今年度、日野市は「第2次学校教育基本構想」を策定しました。そこでは、グローバル化や少子高齢化、高度の情報化をはじめ、急激に社会状況が変化する21世紀をたくましく生きていけるように、「21世紀を切りひらく力」「次代をつくる特色ある学校づくり」「つながりによる教育」の3つの基本方針に基づき、12の主な項目が取り上げられています。中でも「つながりによる教育」においては「郷土や日本の伝統文化を学び、ふるさと日野を愛し、すすんで地域・社会とかかわるひのっ子を育てる」「地域の自然や歴史を教材とした郷土教育を推進し、体験を通して、子供たちの興味や創造性、感性を豊かに育む」ことが取り組みとして掲げられています。

郷土教育推進研究委員会では、以上の課題を受けて、郷土の特色やよさを知り、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成に取り組んでいます。研究の成果を毎年、「郷土日野」指導事例集としてまとめ、現在第9集まで発行しています。日野市立教育センターのホームページで見られますので、是非一度開いて下さい。今後、郷土教材が、ますます幼稚園、小中学校の授業に活かされるとともに、家庭でも教材とした地域を訪ね、家族で日野のよさを再発見していただけることを心より願っています。

豊田南地区区画整理が実施されたことにより、吹上遺跡から古墳が6基も発掘され、豊田地域に関わる遺跡が注目されました。瓦を焼くための釜をつくり、多摩地区でいち早くビールを醸造した山口家（江戸時代からの豊田村名主）の存在など、浅川左岸地域の先進性を強く感じます。

（1）目 的

- ①郷土日野の歴史・自然・文化・産業・人に親しみ、郷土の特色やよさを知り、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成する。
- ②「郷土日野」指導事例第10集を作成し、その成果を各幼稚園・小・中学校や各博物館・図書館等の関係機関で積極的に活用されるように普及・啓発を進める。
- ③教職員対象の研修会で郷土のフィールドワークや実践事例の発表会を実施し、郷土教育を実践できる指導力のある教員を育成する。

（2）内容・方法

- ①日々の授業で活用できる郷土教材を収集・開発する。
- ②各幼稚園・小・中学校で実践できる指導計画を作成し授業実践を行う。
- ③教職員対象のフィールドワークや実践事例発表会を開催する。
- ④以上の実践は、博物館・図書館・公民館等生涯学習関係機関と連携・協力して行う。
- ⑤郷土教材や実践事例を「郷土日野」指導事例第10集にまとめる。
- ⑥「郷土日野」指導事例第10集を電子データ（PDF）化し、ホームページに掲載する。

（3）組織・運営

- 委員長（小学校長1名）○副委員長（小学校副校長1名）
- 委員（学識経験者3名 幼稚園教諭2名 小学校教諭7名
新撰組のふるさと歴史館学芸員1名 郷土資料館学芸員1名 市政図書室司書1名）
- 事務局（市教育委員会指導主事1名 教育センター所員2名）

計20名

3 ひのっ子教育 2 1 開発委員会研究

基礎調査研究係

日野市教育委員会は、日野市における学校教育の振興を図る施策の1つとして「ひのっ子教育 2 1 開発委員会」を設置しています。小・中学校から開発委員が集まり、教科・領域等の教育内容・教育方法の実践的研究を行っています。昨年度は、「感じ、考え、表現するひのっ子が育つ魅力ある授業の創造」を全体の研究テーマとし、小・中学校から開発委員が集まり、ひのっ子が育つ魅力ある授業の創造を迫り実践してきました。

今年度は、教科を理科にしぼり、ひのっ子が育つ魅力ある授業の創造を迫りした授業開発や授業研究に取り組むこととしました。

理科における魅力ある授業づくりプロジェクト

① 研究内容

ひのっ子の学習意欲の向上と基礎的・基本的な知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力等を育成する魅力ある授業づくりを目指し、よりよい授業モデルを提案します。

- 第2次日野市学校教育基本構想における「自ら課題を発見し、考え、判断し、よりよく解決する確かな学力の育成」に基づく効果的な授業改善推進プランの検討
- 教科教育における授業実践研究及び提言（指導と評価の工夫）
- 日野の基本施策である ICT 活用教育、特別支援教育（ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業づくり）、小・中連携の視点を入れた授業提案
- 授業力の向上及び他の教員を指導する資質・能力の育成

② 運営組織

小学校校長	1名	中学校副校長	1名	
開発委員	小学校 11名	中学校 理科	3名	
担当指導主事	1名	教育センター所員	1名	計18名

③ 日程（予定）

4月28日（月）	5月29日（木）	6月27日（金）	7月10日（木）
9月18日（木）	10月17日（金）	11月13日（木）	12月 4日（木）
1月20日（火）・・・研究発表会	2月 6日（金）		

Ⅱ 研修部

1 教員の研修

教職員研修係

(1) 若手教員育成研修

① 1 年次若手教員 (小学校 18 名、中学校 17 名 計 35 名)

年 3 回、初任者のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。指導の観点は、学習指導案が適切に作成されているか、教材に対する理解が十分にあるか、説明や発問が的確で分かりやすいか、板書が丁寧で、計画的なものであるか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどの点で、担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら若手教員の指導にあたります。1 年目の教員として身につけるべき基礎的・基本的な知識・技能の習得を行うべく、指導・助言を行っていきます。

② 2 年次及び 3 年次若手教員

(2 年次 小 17 名、中 6 名 計 23 名 3 年次 小 23 名、中 19 名 計 42 名)

年 1 回、2 年次及び 3 年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。2 年次教員に対して担当所員は、1 年次における研修の成果と課題を踏まえ、授業評価を通して、改善策等を具体的に指導していきます。教科指導における生活指導の在り方にも触れ、より実践的な指導力をつけるためのアドバイスもしていきます。

3 年次教員には、課題解決的、より実践的な授業を行うように、そして、児童・生徒の疑問や要求にも多面的に対応できる力をつけていけるようアドバイスをしていきます。また、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導・助言にあたっていきます。

③ 夏季研修 (2 年次・3 年次)

8 月 27 日に日野第一中学校を会場にして 2 年次が午前、3 年次が午後と、半日単位で若手教員育成研修が開催される予定です。研修会では、2 年次教員、3 年次教員ともにグループに分かれ、各自が一学期に実践した指導事例を発表し、授業展開の方法や教材教具の工夫、改善すべき課題等についてグループ協議を行い、授業改善につながる魅力ある授業作りを目指します。

担当所員は、午前と午後の一日、グループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導・助言を行います。

(2) 教育委員会主催研修会への協力

教育委員会が主催する研修会で、主に教育センターで行われる研修会や夏季休業中に市民会館で開催される教科専門研修(小・中学校の全教員対象)の受付等の準備を行います。

また、夏季休業中に実施される人権教育、外国語活動、特別支援教育、理科実技、昆虫スキルアップ、郷土教育、教育相談の各研修会にも支援業務を行います。

Ⅲ教育相談

日野市立教育センターの相談部の一般教育相談係は、今年の4月より「エール」日野市発達・教育支援センターに移転しました。現在、「学校生活相談」と適応指導教室「わかば教室」が、学校生活相談の事業を行っています。

1 学校生活相談

学校生活相談係【適応指導（わかば）教室】

学校生活相談係は、学校生活における精神的な悩み、人間関係でのストレス、登校しぶり、不登校、児童・生徒の心理的、又は環境をめぐる問題に関しての相談や支援、健全育成に関する資料提供や助言を行います。具体的な活動は次の通りです。

(1) 相談活動

学校生活上の問題や不登校に関する相談、「適応指導（教室わかば）教室」に入室している児童・生徒への計画的・継続的な個別面談の実施。

(2) 「適応指導（わかば）教室」通室児童・生徒への指導・支援

「安心して過ごせる学びの場」づくり、一人一人の児童・生徒に応じた社会的体験や学習活動の援助を通して社会的自立・基礎学力の定着を通して学校復帰への援助。

(3) 登校支援

学校訪問、学校及び保護者との相談、ひきこもり傾向の児童・生徒への働きかけの実施。

(4) 学校・家庭・地域との連携

適応指導教室連絡会、活動状況報告の送付、保護者面談・保護者会・授業参観、わかばだより、地域ネットワーク連絡会、スクールカウンセラー連絡会、地域を生かした体験活動。

教育センター所員4名、カウンセラー2名（毎日1名、週5日）、指導員4名の10名のスタッフで業務に当たっています。「適応指導（わかば）教室」の学習・生活全般にわたって、学生ボランティアの協力があります。教育センター3階が学校生活相談係のフロアとなっています。

「適応指導（わかば）教室」（連絡先 ☎ 042-592-0863 FAX 042-592-1148）

「適応指導（わかば）教室」では、不登校児童・生徒や登校しぶり児童・生徒の支援をします。具体的には、「わかば教室」に通う子どもたちが安心・安定した心理状況で過ごせる学びの場であり、学校復帰を目指す場であるように努めます。そのうえで好ましい人間関係、集団への適応能力、学習への意欲、基礎学力、社会性や自立心の育成を目指し、個々の状況に応じて、個別あるいは少人数による指導・支援・相談をします。

※入室を希望される方、内容を知りたい方はお気軽にご相談ください。

◇「わかば教室」の一日

朝の会で始まり、学習タイム（国・社・算/数・理・英・eラーニングを中心に個に応じた学習指導）、わかばタイム（曜日毎に、栽培・図工・音楽・スポーツ・作文を実施）、ミーティング、個別面接（計画的・継続的なカウンセリング）の時程を組んで実施し、帰りの会で終わります。週1回はスタッフ全員の話し合いの時間を設け、子供一人一人の状況に応じた個別計画のもと指導・支援に当たります。ふれあいを大切に、特に昼休みは、毎日元気にスポーツを楽しんでいます。



お茶会 講義

◇「わかば教室」の行事

遠足、お茶会、誕生日会、スポーツ大会、収穫祭、夏休みの通室日および補習、地域の奉仕活動（老人ホーム訪問等）、社会科見学、図書館訪問、音楽鑑賞教室、音楽会、書初め、卒業・進級を祝う会等感動体験の重視、自らの良さや存在の大切さへの気づきの学習、定期的に行うカウンセリングで情緒を安定させ、子供たちに自信を取り戻させています。

不登校児童・生徒への学習支援：e-ラーニングを実施しています

「e-ラーニング」を活用した学習支援

今年度は、主に二つのことを目標に、e-ラーニング「ひのっ子学習システム」を活用して学習支援の充実を図ります。

1. “わかば教室”に通室している児童・生徒のための学習支援：e-ラーニング

わかば教室に通室している児童・生徒に対して、わかば教室学習活動時間を利用し、児童・生徒の学習支援や学校復帰への援助を図ります。

① 内容

- ・学習時間：固定時間割 月：学習タイム1→中学生 学習タイム2→小学生
水：学習タイム1→小学生 学習タイム2→中学生

- ・活動場所：教育センターパソコン室

※わかば教室見学者は、固定学習日（月曜日・水曜日）にe-ラーニングで体験学習をすることが可能です。事前に時間等をわかば教室を通して確認してください。

2. わかば教室に通室できない児童・生徒のための学習支援：e-ラーニング

さまざまな理由からわかば教室にも通室できず、長期間の欠席状況にある、またはそのような傾向にある児童・生徒に対して、居場所（わかば教室 e-ラーニング学習室）で学習できる機会を設定し、児童・生徒の学習支援や学校復帰への援助を図ります。

① 内容

- ・学習時間：水曜日（わかば教室下校時刻後☆午後2時～4時）
- ・活動場所：わかば教室 e-ラーニング学習室

※事前に調整が必要ですので、学校を通してわかば教室登校支援員に確認してください。

登校支援コーディネーター

日野サンライズプロジェクト（平成23年度より取組みを開始した日野市を挙げての不登校児童・生徒の学校復帰を図るプロジェクト）が目指すところをふまえて、学校や適応指導教室「わかば教室」、平成26年度より開設された「エール」日野市発達・教育支援センターをはじめとする関係機関との連携を図りながら、学校復帰につながる支援を行います。

○適応状況調査（各小中学校より報告される児童・生徒の出欠席の状況調査）の実施、集約、分析、対応策の検討

○各小中学校訪問（対応策相談・助言・ケース会議への参加等）

○児童・生徒の育成に関わる関係機関との連携を進める

- ・「エール」日野市発達・教育支援センター
- ・子ども家庭支援センター
- ・適応指導教室「わかば教室」

○不登校児童・生徒の居場所づくり

○その他、必要に応じて不登校児童・生徒の支援につながる事

教育資料・広報係より

教育センター・教育資料室のご案内

教育センターの教育資料室は、日野市内幼稚園・小学校・中学校の教員の皆さんが、日頃の教育・指導の充実、教育研究の推進に役立つようにとの目的で設置されています。市民の皆さんも利用することができます。また、教員の皆さんは、市役所内交換便による貸し出しの制度を使ってセンター外で利用することもできます。下記をご覧ください、ぜひご利用いただくようご案内いたします。

1 閲覧資料 総資料数 4800点

- ・教育関係の専門図書資料 国語大辞典などの専門辞典
- ・各社の教科書（小学校：昭和61年～、中学校：昭和56年～）
- ・日本教育新聞、内外教育（時事通信、平成13年～）
- ・初等教育資料（文科省）、中等教育資料（文科省）教育時報（都教育委員会）
- ・市内小中学校の校内研究集録 郷土教育資料 日野市関係の資料
- ・AV教材（DVD、CD-ROM、VHSビデオテープ） 他

2 閲覧時間 月～金曜、9時～17時

3 閲覧場所 センター3階図書室（2階の事務室でお声がけをしてください）

4 貸し出し お気軽に教育図書・資料係へご連絡ください。（教員のみ）

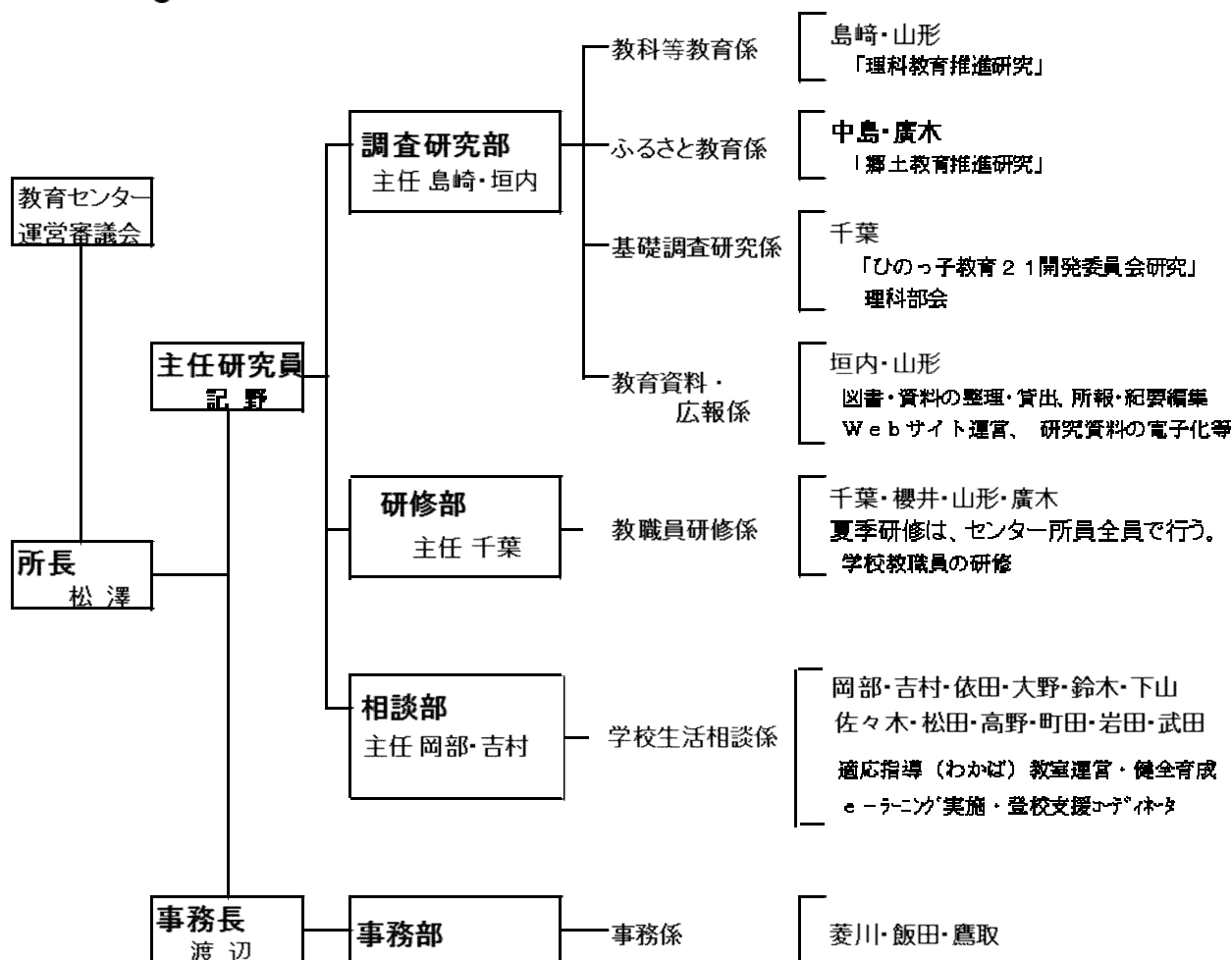
5 校務支援メール、電話による貸し出しの方法について

- ①各小中学校図書室のパソコンには、図書館管理システム（探調ツール：指導で通常使われるシステム）の他に、「横断検索システム」というアイコンがあります。
- ②「横断検索システム」を使いますと、他校の図書だけでなく、教育センターにあるほとんどの教育資料を検索することができます。
- ③このシステムで確認した必要な資料がありましたら、当センターの教育資料・広報係へ、校務支援メールか、電話で連絡ください。
- ④貸し出しの図書は交換便でお送りします。なお、交換便では、AV資料などはお送りできませんので、センターにお出でいただくか、ご依頼いただければお届けします。

教育センター・広報の刊行物のご案内

- ・教育センター紀要 一年間の調査研究事業、研修部、相談部で行った事業のまとめ
 - ・教育センターだより 日頃のセンター活動の状況についての広報紙。年間3回の発行
- いずれのバックナンバーを、当センターWebサイトでご覧いただくことができます。

平成26年度 教育センター組織図



教育センターWebサイトのご案内

- センターでは、広報活動の一つとしてWebサイトを開設しております。教育センターの活動の様子を画面上でご覧いただけます。今までの活動の積み重ねをPDFファイルなどで見ることができます。また、郷土教育を進めるために作成された「郷土教育指導事例」などの冊子も見ることができます。

下記のアクセスの方法から試していただき、教育センターのWebサイトをご覧いただければ幸いです。

- 1 検索サイトから「日野市立教育センター」を検索する。
- 2 「日野市役所」、または「ICT活用教育推進室」のメニューから入る。

○インターネットアドレス（url）www.hinotky.ed.jp/center/

